

一月分衛生史編集資料

第百十六師團軍醫部

一、部隊行動ノ概要

昭和二十年十月以來依然中華民國湖南省岳陽縣孫武鹿角地區ニ集結シ復員準備ノ完成ニ努メアリ

二、衛生機關業務ノ概要

一、軍醫部業務ノ概要

主要ナルモノ左ノ如シ

(1) 復員準備ノ指導

特ニ元歿者關係書類及恩典關係書類ノ調製及整備

(2) 衛生機關ニ對シ診療業務上ノ指導

(3) 防疫指導

特ニ回歸熱及痘瘡防疫

(4) 野戰病院收容患者ノ後送處理

(ホ) 一月十日師團司令部・於テ病院長及聯大隊高級醫官會
同ヲ實施シ一般衛生指導ヲ行フ

ス各衛生機關業務ノ概要

(イ) 集結以來依然第二野戦病院ハ胷高冲(孫武東一軒)第
四野戦病院ハ鹿角東二軒地奥ニ野戦病院ヲ開設シ收療
業務ニ任ズ

第一野戦病院ハ集結ノ儘開設シアラズ開設各野戦病
院ノ收容力ハ夫々約百名ナリ

(ロ) 衛生隊ハ集結シ師團野戦病院收容患者ノ後送時開設
地ヨリ驛若クハ港ニ至ル輸送ニ任ズ

(ハ) 軍醫部勤務班(菌檢索・消毒等擔任)ハ依然軍醫部
長ノ直轄トシテ諸種ノ菌檢索ニ任ジアリ

三一般衛生及自給自治對策

(一) 被服

全員冬衣袴各人概不着冬襦袢袴下同(五枚ヲ有シテ)
程度ハ中等度以下ナルモ日常ノ使用ニ支障ナシ

寢具ハ毛布概不二人ニ一枚他ニ冬外套概不二人ニ一着ヲ保
有シ之ヲ以テ寢具ニ充當シアリ 蒲團ハ師團ノ保有量五
五五枚他ニ中國側ヨリノ借用品一四〇枚ヲ有シアルモ寢具ハ
極メテ不十分ニシテ宿營狀況ノ不良ト相俟テ夜間寒冷ニ
因ル悪感作ハ相當著シキモノアリ

軍靴ハ各人一足ヲ保有シアルモ終戦直後以來殆ド更新ナク
衰損著シキ爲草鞋下駄等ノ使用ニ依リ愛護節用ニ努
メアリ

(二) 給養

主食ハ定量一人日額七八〇瓦トシテ主トシテ現品ヲ以テ副食ハ
同一〇〇元トシテ代金ヲ以テ何レモ岳州第四區兵站司令部第
十二前進倉庫ヨリ補給ヲ受ケルモ特ニ昨年十二月以來補

給不圓滑トナリ月間主食ノ補給実績ハ所要量ノ七九％
 二過ギズ 各隊ハ夫々其ノ保有量ニ從ヒテ食延シテ實施シ一
 人一日給與量概ネ三五〇―五〇〇瓦トナリ 副食ハ副食費
 一〇〇元ノ中食塩、燈火用燃料、事務用消耗品、一部ノ薪炭
 等ニ充當スル分ヲ控除シ概ネ一人一日六〇元程度ヲ以テ購入シ
 アリ 副食品ハ甘藷(一人一日三〇―一〇〇瓦)、蘿蔔ヲ主トシ肉
 類ノ缺乏ハ川蝦、油揚、大豆等ヲ以テ補ヒアリ 各隊共一概ニ
 一日ニ食トナシ朝食又ハ雑炊、夕米飯又ハ混食(甘藷、大
 豆等)ヲ給シ一日給與熱量一八〇―二〇〇カロリーヲ算シテ
 リ月間實施セル養價算定ノ一例別紙ノ如シ

(三) 宿營

一概ニ民衆ヲ使用シ住民ト混住宿營シテ室内ニ居住シアルハ
 概ネ五分ノ一以下他ハ凡テ院子、會堂等ニ葦、竹、蚊帳等ヲ
 以テ仕切ツテ上間ニ雜草、藁等ヲ敷キテ居住シ防寒狀況
 極メテ不良ナリ 炊事場ハ一部ニ於テ既設ノ炊事場ヲ利用シ

(前谷典・京集)

ルモ大部ハ屋外ニ粘土、土煉瓦等ヲ以テ簡單ナル竈ヲ設置シテ
便所ハ夫々住民使用ノモト別箇ニ設置ス

(四) 給水

池、小川、洞庭湖等ヲ水源トナシ煮沸給水ニ依ル 水質ハ多クハ

微濁シテモ無味無臭硬度著シクハ高カラズ

衛生濾水機ハ取具シテ所有シテアリタルモ二具ヲ除キ他ハ破損シ

修理不能ニシテ現在使用中ノモノハ主トシテ製劑用トシテ使用シ

アルニミナリ

(五) 自給自治対策

主ナルモノ左ノ如シ

(イ) 蘿蔔、白菜、油菜等ヲ栽培ス 各隊共實施シアルモ副食ノ

極小一部ヲ充足シアルニ過ギズ

(ロ) 洞庭湖畔ニ於テ貝類ノ捕獲ハ利用價值大ニシテ中隊ヨリ

テ六蛋自補給源ノ主要部分トナシアルモノアリ

(一) 炭ノ自製、副食費ヲ以テ山林ヲ購入シ炭ヲ自製ス一入一箇
月利用量概ネニ倍ナリ

(二) 硫黄、支那酒、竹等ヲ購入シ夫々硫黄製剤、酒精、竹炭
末等ヲ製劑ス硫黄^黄八月間購入量約ニ五吨ニシテ廣ノ需
要ヲ充足セシメ得タリ

(三) 右ノ外廢品程度ニ被服ヲ利用セル足袋、草鞋、藁靴、藁
背囊、竹ヲ利用セル日用器具等製作シアル足袋、草
鞋ヲ除キ未ダ廣ノ利用スルニ至ラズ

四、防疫(瘧)検査及衛生施設ノ状況

(一) 防疫

1. 瘧瘧防疫

鹿角東方地區ニ於テ住民間ニ昨年十月七日ノ初發
トシ其後特ニ十二月上旬以來局地的流行ヲ来セル瘧瘧
ハ本年一月ニ入り流行ノ度ヲ著シク減弱シタルモ一月末ニ

(松谷真・京東)

於テ未ダ完全ニ終熄スルニ至ラズ且鹿角以外ノ地區ニ於
 テモ數名ノ散發的發生ヲ見タリ右ニ基因シ十二月九日
 以來歩兵第百二十聯隊ニ同症ノ蔓延シテ末シタルモ是亦
 本年ニ入りテ發生數極メテ少數トナリ獨リ同聯隊第三機
 関銃中隊ニ於テ依然數日ノ間隔ヲ以テ散發性ニ發生シア
 ルヲ除キ殆ド終熄ニ近シ

月間軍内及地方側發生狀況左表ノ如シ

軍	隊	病名	發症地	發症月日	決定月日	摘要
假痘	獨山二ノ二中	獨山二ノ二中	賀家坪南一軒 (孫武西方五軒)	一、二	一、四	治療
假痘	獨山二ノ五中	獨山二ノ五中	周家坪北一軒 (孫武西南六軒)	一、二	一、四	治療
假痘	步一三ノ三機	步一三ノ三機	鹿角 (孫武西百軒)	一、九	二、九	治療
真痘	鹿角	鹿角	鹿角 (孫武西百軒)	一、三	一、五	治療
真痘	孫武西百軒	孫武西百軒	孫武西百軒	一、三	一、三	死七 (一、三)
初發以來累計	兵	兵	兵	兵	計	
真痘	四	三	三	三	計	三七

病院病室内ニ於テ院内感染ヲ來シ又殆ド時々同ジク
 ニテ歩兵第百九聯隊内ニ於テモ流行蔓延セリ(特ニ第中
 隊及第八中隊)

右ノ爾後ノ防疫措置ニヨリ一月下旬以降殆ド其流行シ
 停止セリ

然ルニ歩兵第百ニ聯隊第ニ中隊ニ於テ十二月十五日一名初
 發患者アリタル際隊隊診斷ニ於テ其ノ病歴ニ關スル調
 査不十分ナリシニ基因シ之ヲ戰爭榮養失調症疑トシ
 テ第四野戰病院ニ送院シタルト且又偶々同病院ニ於テ
 渉外關係ニヨリ顕微鏡ヲ一特他ニ移管シタルトノ慮ニ
 之ガ確診ヲ遲延シ同中隊ニ於テハ一月上旬以來著シキ
 流行ヲ來シ(中隊全員約一四四名中初發以來發生數
 ニ二名)第四野戰病院ニ於テハ一月下旬以來院内感染
 ノ微顕著トナレリ

各部隊患者發生數左表ノ如シ

部 隊 別	初發月日	一月間發生數	初發者累計	備 考
歩百九ノ連射砲	九三〇	一	二	
歩百九ノ三中	一一二	一	一三	
歩百九ノ三中	一一三	一	二	
歩百九ノ三隊砲	一七	一	一	
歩百九ノ六中	一一四	一	一	
歩百九ノ八中	一一三	一	三	
歩百九ノ十中	一一七	一	一	
歩百九ノ五本	一一二	一	一	
歩一二〇ノ二中	一一五	一	二	一月間發生者ノ疑似者
歩一二〇ノ二大隊砲	一一〇	一	一	
歩一二〇ノ五本	一一三	一	一	
歩一二〇ノ十中	一一六	一	一	疑似者

(納谷典・京典)

師團ハ昭和十九年十一月ヨリ昭和二十年六月ニ亘ル間回
 歸熱ノ著シキ流行ヲ來シタル其後岳州南方地區集
 結苗初ニ亘ル迄完全ニ中絶シアリタリ 今次ノ師團内發

ii 感染経路

一月々間發生數計	四野病		二野病		獨山ニノ三中	獨山ニノ三中	步一三三ノ九中	步一三三ノ二機	步一三三ノ一中
	入院	自來	入院	自來					
	一三四	一六六	一一一	一三	一一一	一一〇	一九	一三	一三
	五	二	五	三	一	一	一	一	一
	八	二	一四	三	一	一	一	一	一
							疑似ナリ		疑似ナリ

陸軍

生ノ感染源ニ就キ調査スルニ殆ド凡テ武昌ヨリノ移入ト認メ
ル感染経路明瞭ナルモノト擧ガレバ本如シ

(イ)十月十四日發病師團經理部兵一名ハ集結ノ爲九月二日
寶慶出發シ同月三十日榮榮灣(孫武東北北三軒)ニ到
着シ發病セルモノニシテ行軍間ノ地方住民ヨリ感染セルモノト
認メラル

(ロ)十月十五日發病師團管理部衛兵兵一名ハ俘虜トシテ
湖南省長沙ニ在リ十月八日師團主力ニ引渡ケラル後直
ニ發病セルモノナリ

(ハ)第二野戰病院病室及歩兵第百九聯隊各中隊ニ於ケル
發生ハ前例患者ヨリノ院內感染後ニ退院患者ニ見病
毒ノ部隊内移入ト認メラル

(ニ)十一月三十日歩兵第百二十聯隊第三步兵砲小隊ニ發生セ
ルモノハ同班ノ兵一名回歸熱ノ爲武漢地區兵站病院ニ
入院中ノ所治療退院シ十一月十四日小隊ニ復歸シタルヨリ

(轉谷真・京東)

疫毒ヲ傳播シタリト認メラル

(ホ)十二月十五日以降歩兵第百二十聯隊第二中隊ニ流行セシ
モノハ同中隊ノ兵一名赤痢ノ爲武漢地區兵站病院ニ
入院中ノ所治療退院シ十一月十四日中隊ニ復歸シタ
ルヨリ疫毒ヲ移入蔓延セシモノニシテ二箇分隊ハ全員
罹患セリ

(ハ)第四野戦病院ニ於ケル院内感染ハ前項初發患者
ノ入院ノ際本症ヲ看過シタルニ依ル

(ト)各中隊間相互ノ傳播ハ聯大隊本部等ニ於テ衛兵所
臨時宿泊者等ヲ介シ行ハレタルモノト想像セラル

川防疫實施状況

防疫上實施セル特別ノ事項左ノ如シ

(イ)第二野戦病院ニ院内續發ノ徴ヲ認ムルヤ新ニ回歸
熱専用病棟ヲ設置シ回歸熱及同疑似患者ヲ直チ

ニ分離收容ス

(四) 軍醫部々員ヲ發生部隊ニ派遣シ、或發生状況ノ精査
ヲ防疫指導等ニ當ラシム

(ハ) 退院患者及武漢地區ヨリノ復歸者ハ着隊特兵室
ニ入ル前ニ被服一切ヲ交換セシム

(ニ) 被服、寝具ノ者沸(蒸氣)消毒ハ一齊ニ實施シ、必ず
將校立會監督シ、被服寝具消毒實施表ヲ作製
等ヨリ脱漏ヲ防止ス

IV 教訓

(イ) 回歸熱初發時ニ於テ早期確診ハ極メテ肝要ヲ占
メ、往々ニシテ看過シ易ク之ガ爲メ爾後ノ防疫ヲ甚ガ困
難ナラシム。歩兵第百九聯隊第二中隊及歩兵第百二十
聯隊第二中隊ノ例ハ、何レモ初發患者ヲ看過シ、回
歸熱ト確認セシ際ハ、既ニ中隊内ニ十數名ノ蔓延ヲ

(終谷典一氏)

シアリタル失敗例ナリ

(四) 分小、中隊等各隊間相互ノ蔓延ハ部隊衛兵ノ假眠所、入浴場所、脱衣所、外來者ノ宿泊等ヲ介シテ行ハル、コト多シ

從ツテ衛兵ノ差出ハ一定期間建制ヲ以テ持續シ混成若クハ頻繁ナル交代ヲ避クルヲ可トシ入浴モ亦各隊間ノ混合利用ヲ廢シ分隊等ヲ單位トシテ入浴日ヲ割出シ脱衣所ハ棚ヲ除キ被服ハ竹、釘等ニ吊下グル如クスルヲ可トス又流行時ニ於ケル外來宿泊ハ最少限度ニ制限スルヲ要ス

(八) 回歸熱ハ院内感染防止ノ最モ困難ナル疾患ノ一部ナリ認ム從ツテ各隊間ニ回歸熱發生ノ徴ヲ認ムルヤ速カニ専用病棟ヲ設定スルヲ適當トス

(二) 被服寢具ノ消毒ニ方リテハ毛布及藁ノ消毒ニ脱漏

セザルヲ肝要ナリ 前記多發部隊ニ於テハ之ヲ徹底セ
シメタル結果發生ヲ頓坐的ニ終熄セシメ得タリ 及之被
服ノ消毒ハ徹底スルモ毛布及藁ノ消毒不徹底ナル部
隊ハ虱ノ發生ヲ減ツセシムル程度ニ止マリ之ガ根絶ヲ求
メ得ザリキ

3. 其他ノ急性傳染病

(1) 赤痢

月間發生數一六名ナリ 防疫上特ニ留意シタル事項ハ食
器煮沸消毒ノ徹底後ニ生水ヨリ合飲ノ禁止ナリ

(2) 腸チフス及「バラチフス」

月間發生數腸チフス「五名、A型バラチフス」一名ニシテ比
較的少數ナリ 感染経路ハ全然不明ナリ

(3) 流行性腦脊髓膜炎

二十六日歩兵第百三十三聯隊第廿二中隊ニ於テ兵一名流行

(續前頁)

性腦脊髄膜炎ニ發病三十日死亡ス
至ニ五日間軍醫部
勤務班ヨリ檢索班ヲ派遣シ發生中隊ノ菌檢索ヲ實施シ
タル全員陰性ナリ

患者ハ發病前他ノ地區ニ赴キタルコトナク地方住民ヨリ感
染ト認メラルモ住民同ノ患者ハ未ダ發見シ得ズ續發
シ

(二) 防疫

月間コラリアノ患者發生數四一六名ナリ

患者及集中地檢疫ニヨリ摘發セル原虫保有者ノ完全治療
ニ努メヤリ

(三) 檢疫

集中地檢疫ハ昨年十二月末概テ終了シタルモ當時道路作
業等中國側ニ應役中ナリシモノニ對シ月間補足實施セリ
又コライバ性赤痢ニ對スル檢疫ハ未了ナリシヨリ月間左ノ如ク實

施セリ

部 隊 既

検査担当部隊

總人員 實施人員

陽性 性 数

計

歩 一 二 〇

砲 一 二 二

四 野 隊

陽性 性 数

計

砲 一 二 二

四 野 隊

陽性 性 数

陽性 性 数

計

計

備考 陽性數欄 括弧内 數字ハ 實施人員ニ對スル 百分比ヲ示ス

(四) 衛生施設

主ナルモノ左ノ如シ

(1) 便所

各部隊共屋外ニ坑式便所ヲ設置シ(深サ約一米)葺草柄

竹等ヲ以テ簡單ナル圍壁ヲ設ケアリ

(2) 食器煮沸消毒装置

釜 石油空罐等ヲ利用スルカ若クハ 飯盒ニ少量ノ水ヲ入レテ直

接加熱スル如クシ各部隊共實施徹底シアリ

(3) 入浴場

中隊ニ概ス一乃至二箇ノドラム罐ヲ有シアリ 通常之ヲ以テ屋外ニ屋壁ニ接シ直接加熱式ノ簡單ナル入浴場ヲ設置ス
入浴場ノ又同時ニ被服、履具消毒用トシテ利用シアリ

(4) 手指消毒施設

藥液ニ依ルモノハ醫務室ヲ除キテハ設置シ得ズ 淨水ニ依ルモノモホガ設置不徹底ナリ

(5) 休養室

病院ノ收容力ヲ擴張シ得ル狀況ニ付隊診療ヲ續充スルニ要アルモ各隊モ亦宿營ノ余裕ニ乏シク休養室ヲ設ケルモノハ全体ノ五分ノ一以下ニ過ギズ

五. 患者ノ狀況

患者發生ノ狀況左表ノ如シ

月別	前月	本月	新患		平均一日現在患者数	毎千平均一日現在患者数
			病種	傳染病		
新患	130	134	35	34	310	180
傳染病	134	136	28	21	315	193
計	264	270	63	55	625	373

病種	新患	計
マラリア	41	66
回腸熱	45	32
肺結核	14	3
結核性肺炎	1	3
脚気	2	3
栄養失調症	1	3
急性腸炎	1	3
花柳病	1	3
赤痢	1	3
腸チフス	5	3
パラチフス	1	3
痘	5	3
瘧	5	3
流	5	3
脳	1	3

月間傳染病病名別新患發生數及戰後主要病名(類)別新患發生數左表ノ如シ

備考 一 新患欄括弧内數字ハ計數スル百分比ヲ示ス
 二 前月平均一日現在患者數及毎千平均一日現在患者數ノ概數トス

傳染病 赤痢 腸チフス パラチフス 痘 瘧 流 脳
 主要疾病ニ就キテハ赤痢、腸チフス、パラチフス、痘、瘧、流、脳、等ハ、急性傳染病ヲ除ク
 (栄養失調症 新患、四一%ヲ占メ漸次増加ノ傾向アリ)

(箱谷典・東京)

(四) 脚氣

(イ) 肺結核及結核性疾患

新患ノ二・五%ヲ占ム
新患ノ二・五%ヲ占ムノ終戦以來増加シアル元前

月ニ比シ大ナル差等ヲ認めズ

(ロ) 急性肺炎

患者數三二名ニテ例年ニ比シ多數ナリシハ宿

箸ノ不良、寝具ノ不足等ニシテ悪感作ノ結

果ト認めラレ

(ハ) 疥癬及頑癬

患者數六三八名ニテ依然多發シアルモ

黄ノ購入製劑ヨリ著シク減少シツアリ

六、患者轉送後送ノ状況

月間第二及第四野戰病院收容患者ヲ左ノ如ク後送ス

期	日	後送	先	患者數	同上區分	同上區分	同上區分	輸送方法
一	一	一	一	一四二	一	一	一	榮來海ノ冷水舖
二	一	一	一	一一〇	二	二	二	同陸軍輸送
三	一	一	一	三三	三	三	三	同陸軍輸送
四	一	一	一	六二	四	四	四	同陸軍輸送
五	一	一	一	四七	五	五	五	同陸軍輸送

七、衛生材料ノ状況

待記事項ナシ

八、接收ニ関スル涉外事項

韓籍部隊將兵ノ移住ニ當リ個人携行藥品一人概ネ一ヶ月

部隊用一ヶ月分ヲ支給ス

其、他接收^{ハレタ}ヤルモノナシ

(結 算 書 第 一 号)

1265

二月分衛生史編纂資料

第一百十六師團軍醫部

一、部隊行動ノ概要

依然中華民國湖南省岳陽縣孫武鹿角地區ニ集結シ既ニ概成セル復員準備ヲ補備シ隨時出發シ得ルニ準備ノ完成ニ努メアリ

二、衛生機關業務ノ概要

一、軍醫部業務ノ概要

主要ナルモノ左ノ如シ

(1) 復員準備ノ指導

軍醫部長ハ十二日以降各部隊ニ出張シ復員關係書類ノ整備状況ヲ検査スルト共ニ特ニ恩給關係書類ノ調製ニ關シ實地指導ス

(2) 衛生機關收察業務ニ對スル指導監督

(一) 保育班ニ防疫指導

(二) 野戦病院收容患者ノ後送處理

2. 各衛生機關業務ノ大要

(1) 野戦病院

第一野戦病院ハ集結、第二及第四野戦病院ハ夫々青森
沖(孫武東一軒)及郝家橋(鹿角東二軒)ニ開設シ患者
ノ收療ニ任ジアリ 月間開設各野戦病院ハ病室ニ使用
シアリシ學校ノ一部返還ニヨリ其ノ收容力第二野戦病院
約一〇〇名、第四野戦病院約八〇名ニ縮少セリ

(2) 衛生隊

衛生隊ハ集結シ師團野戦病院收容患者ノ後送ニ際シ
開設地ヨリ輸送機關ニ至ル間ノ局地輸送ニ任ズ

(3) 軍醫部勤務班

依然軍醫部長ノ直轄トシテ主トシテ諸種ノ菌檢索ニ任ジアリ

三、一般衛生及自給自治對策

(一) 被服

概ネ一月分記載ニ同ジ月間師團内ニ於テ寢具ノ一部保
管轉換ヲ行ヒ各部隊間ノ平均化ヲ圖レリ

(二) 給養

昨年十二月以來漸次不圓滑トナリタル中國側糧秣補給ハ月
間更ニ不圓滑ノ度ヲ加ヘ補給実績ハ所要量ノ四〇・九%ニ
過ギザル狀況トナレリ 之ガ爲各隊ニ於テハ主食給與量概ネ
三〇〇―四〇〇瓦ニ低下シ月末ニ於テハ一部ニ於テニ五〇瓦ヲ給與ハシ
得ルニ過ギザル状態トナレリ 之ヲ補足スベキ甘藷モ亦逐次出
廻リ減少シ一日給與量ニ三〇―七〇瓦程度トナレリ 如之一般ニ
物價高ノ爲副食費中糧食食品購入ニ充當シアル一人一日六〇
元モ大部ヲ主食補填(甘藷、大豆等)ニ使用シ爾余ハ蘿蔔
ヲ主トシ僅カニ川蝦、油揚等ヲ加フル狀況ナリ 各隊共一日ニ食

陸軍

トナシ朝粥食、夕雜炊又ハ混食ヲ給シ一日給與熱量概本
一、五〇〇—一、九〇〇「カロリー」同蛋白質四〇—五〇瓦過ギズ
月間實施セル養價算定ニ別紙ノ如シ

(三) 宿營

(四) 給水

一月分記載ノ如シ

(五) 自給自治對策

一月分記載ノ野菜栽培、製炭、製劑(硫黃製劑、酒精、竹炭末)各種手工品製作等ノ外洞庭湖畔ニ於テ貝類ノ捕獲ノ部隊全徹ニ普及強化セシメタリ又逐次ノひる、きつぬくよぶ、よめな、はこべ、ほんじん、あさみ、根等野草ノ採取利用ヲ開始セリ右ノ外各隊共歸還ノ急ノ船内携行食ヲ野菜製作セリ(米粉、甘藷、油等ヲ材料トス一日分保有熱量二、〇〇〇—二、三〇〇「カロリー」費用一人一日分八〇—一〇〇元)

(35頁 1. 1. 1.)

四、防疫(瘧)検査及衛生施設ノ状況

(一) 防疫

一月間急性傳染病(流行病ヲ含ム)發生状況左ノ如シ

病名別	月別	一月	二月	計
赤痢		一六	二三	三九
腸チフス		五	一	六
パラチフス		一	一	二
痘瘡		五	四	九
流行性腦脊髄膜炎		一	一	二
回歸熱		一三	二	一五
計		七三	五六	一二九

備考 上記ノ数字ハ疑似症ヲ亦シ別記トス

二月回歸熱疑似一三名 二月間病名決定シ二月ノ一八名中

ニ含まレリ

陸軍

(2) 右ノ中主要ニ傳染病ニ就キテ速ブレバ左ノ如シ

(1) 痘瘡

地方側ニ於テハ依然前月ト同程度ノ散發ヲ續ケアリ
 流行狀況ハ師團集結地區内全般ニ亘リ瀰漫性ナリ地方
 側患者發生數一月一六(全部眞痘)二月一五(全部眞
 痘)ナリ

軍内ニ於ケル發生ハ一月比シ更ニ減少シアリ月間部隊別
 發生狀況左表ノ如シ

部隊別	眞痘	假痘	計	備	要
歩百九ノ五本	—	—	—		
歩百九ノ九中	—	—	—		
歩二〇ノ三機	—	—	—		
計	—	—	—		
(1) 回歸熱	—	—	—		

(續前頁)

陸軍

月間發生數二八名(前月病名未定ニシテ本月病名決定セル一三名ヲ含ム)ニシテ前月四五名ニ比シ著シク減少セリ
歩兵第百九聯隊第ニ中隊ニ於ケル流行(初發昭二〇、二二)及第ニ野戰病院ニ於ケル院内感染(初發昭二〇、二二)ハ既ニ前月末終熄シ(終發夫々一月二三日及同月二九日)歩兵第百ニ聯隊第ニ中隊ニ於ケル流行(初發昭二〇、二二)モ亦二月二日發生ヲ最後トシ終熄シタルニ前月二十四日以來發生セル第野戰病院ニ於ケル流行ハ月間ヲ通ジ散發ヲ繼續シ未ダ終熄スルニ至ラズ
其ノ他月間爾余ノ聯隊(中隊)ニ於テ感染経路不明ノ同症患者ヲ散發セリ

昭和二十年十一月以來部隊別患者發生状況左表ノ如シ

部隊別	昭和二十年	昭和二十一年	計
司令部	十一月	十二月	二月
	二		二

步一〇九ノ一〇	步一〇九ノ二中	步一〇九ノ三中	步一〇九ノ六中	步一〇九ノ八中	步一〇九ノ天塚砲	步一〇九ノ五本	步一〇九ノ十中	步一〇九ノ英砲	步一〇九ノ二中	步一〇九ノ天塚砲	步一〇九ノ五本	步一〇九ノ七中	步一〇九ノ十中

(秋谷史・三)

四野病 入院	自隊	二野病 入院	自隊	輪一六ノ一中	工二六ノ二中	獨山二ノ三中	砲一二二ノ四中	歩一三三ノ九中	歩一三三ノ二機	歩一三三ノ一中	歩一三三ノ一本	歩一三三ノ歩兵砲	歩一三三ノ大隊砲
		二										一	
		七											三
		一	二	五	三	一							
		八	一										
		九	三	四	三	一	一	一	一	一	一	一	三

陸軍

計

七 一七 四五 二八 九七

月間比較的好天候繼續シ驅虱ニ有利ナリキ防疫
實施ノ状況概ネ一月分記載ニ同ジ

ハ赤痢

月間發生數ニ三名ニシテ前月ノ一六名ニ比シ増加シ
アリ「アメーバ」性赤痢特ニ其ノ再發ヲ主トス エメチン劑
ノ缺乏ニ伴ヒ治療上困難ヲ來シアルモ「サルバル」劑ヲ
以テ代用シ若干ノ效果ヲ收メアリ 月間死七概三名ナリ

↑
二防瘧

「マラリア」患者發生數左表ノ如シ 各部隊ニ於テハ之ヲ治
療ノ徹底ニ努ム目下「マラリア」劑ハ概ネ本年四月頃迄
充當シ得ル如ク保有シアリ

月別	昭和十一年	十一月	十二月	昭和十一年	一月	二月
患者數	約二〇〇	約二〇〇	四一九	三三〇		

(續前頁・中)

(三) 検査

月間実施事項

(四) 衛生施設

一月分記載事項

五. 患者ノ状況

患者發生ノ状況左表ノ如シ

病名	月別	月別區分		計	平均日現在患者數	毎千平均日現在患者數
		新	舊			
榮養失調症	一	三三	三八	七一	三一	一九・三
	二	九七	五九	一五六	三一	一九・三
マラリア	一	一一	一六	二七	四二	二五・五
	二	九八	四四	一四二	四二	二五・五

備考 新患者括弧内數字ハ計對スル百分比ヲ示ス
 (2) 戦病中主要病名(類)別新患者發生状況左表ノ如シ

陸軍

脚	脚	結核	結核性疾患	急性肺炎	疥癬、頑癬	花柳瘡
三六(一)	一四(一)	一二(一)	三二(一)	六三八(一)	三(一)	
二・九	一・〇	〇・九	二・三	四六・九	〇・二	
二・三	一・七	二・一	二・六	四六六(一)	二(一)	
二・〇	一・四	一・八	二・二	四〇・〇	〇・二	

備考 一括孤以數字ハ新患總數ニ對スル百分比ヲ示ス
 主要疾患ニ就キテハ考察左ノ如シ
 (1) 榮養失調症

前表ノ如ク一月ニ比シ著明ニ増加セリ 是ノ一徵衛生及自給
 自治對策ニ於テ記述セシ如ク特ニ二月中旬以降給養狀
 況ニ極度ニ低下セル事實ニ關聯シアルヲ明瞭ナリ 但シ現
 況ニ徴スルニ(1) 榮養失調症罹患者ハ殆ド凡テ従來ヨリ体
 質強ニ體力劣弱ナルモノ特ニ第三國民兵役出身者等ニ多ク

(續谷與・京史)

陸軍
コト或ハ(川)昨年未中國側ニ對スル應役トシテ道路作業ノ
爲ニ派遣セラレタル部隊ニ稍、多發シアルコト等 純粹ノ給養
不及ヨリモ爾余ノ内的因子及外的條件ノ干與ニ基因スルモ
ノナリト看取セラレモ未ダ全般的飢餓ノ段階ト稱得
ナルモ之ガ推移ハ今後ノ給養狀況ト照合シ最ニ警戒ニ要
アリ

(四)肺結核及結核性疾患

前月ニ比シ増加シアリ 前項同様給養ノ低下ニ關聯セルモノ
ト認メラル

(ハ)急性肺炎

依然多發シアリ 宿管狀況ニ不良ナル起因ニアリト認メラル

(ニ)疥癬頑癬

昨^降年秋現集結地ニ到着以來甚ク多發セル本症ハ昨
年末以來現地購入ノ硫黃ノ利用ニ依リ漸減シ月間前

月比シ更ニ減少セリ

(3) 月間師團野戦病院收容患者数及其ノ轉歸左ノ如シ

區	分	旧患	新患	計	轉	歸	患者数
患者数	一六三	一六六	三二九	一〇三	二四	五四	九
死亡者(隊死亡五名ヲ含ム)							
病名別負数左ノ如シ							
赤痢	三						三
急性肺炎	一						一
カタル性黄疸	二						二
脚氣	二						二
計							五

備考 「アラビア」 数々ハ隊死亡ヲ示シ別記トス

六患者轉送後送ノ状況

月間第四野戦病院收容患者ノ左ノ如ク後送ス

期日	後送先	後送患者数	同上區分	同上救護區分	輸送方法
			野戦傳染病	相送	護送
			独歩		

(續前頁・東京)


既報ノ如ク尿道注射器外ニテ六英ニシテ重要資料ナルヲ
接收ヲ免レタリ

別紙第廿

自一月十二日
至一月十四日 養價算定表

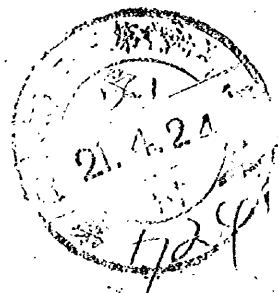
(第百十六師團軍醫部勤務班)

備考	品目	数量	蛋白質	脂肪	含炭素	カロリー
給養人員九五名一日一人平均給與量	白米	三三〇	二五・四	二・六	二五三・四	二六七・九
	甘藷	二二八	三・二	〇・五	六五・七	二八六・六
	大根	二三二	一・六	〇・五	八・六	四一・八
	大根葉	一〇五	二・六	〇・五	一・三	二〇・八
	唐车子	〇三	〇・一	〇・一	〇・一	〇・五
	干蝦	五	一・一	〇・一	〇・一	四・六
	油揚	一三	二・九	二・四	〇・一	三四・六
食油	〇四	〇・一	〇・四	〇・一	三・七	
合計		三六八	六・四	三二九・〇	一五六・五	

	局長 	
---	---	---

三月分衛生史編纂資料

第百十六師團軍醫部



一、部隊行動ノ概要

依然、中華民國湖南省岳陽縣孫武、底角地區ニ集結シ、概不復員準備ヲ完成シ、出發ヲ待機シアリ

二、衛生機關業務ノ概要

一、軍醫部業務ノ概要

主要ナルモノ左ノ如シ

- (1) 復員準備補備完成ノ指導
- (2) 衛生機關收療業務ニ對スル指導監督
- (3) 栄養失調症ニ對スル對策
- (4) 防疫指導
- (5) 患者ノ後送處理

二、各衛生機關業務ノ概要

①野戦病院

前月ニ同ジク第一野戦病院ハ集結第二及第四野戦病院ハ夫々平高冲(孫武東一軒)及柳家橋(鹿角東ニ軒)ニ開設シ患者ノ收療ニ任ジアリ、收容力第二野戦病院約一〇〇名、第四野戦病院約八〇名ナリ

②衛生隊

依然集結シ師團野戦病院收容患者ノ搬送ニ際シ間放地ヲ輸送機關ニ至ル間ノ局地輸送ニ任ジアリ

③軍醫部勤務

依然軍醫部長ノ直轄トシテ主トシテ諸種ノ檢査作業ニ従事シアリ

三一般衛生及自給自給対策

(一)被服

各人冬衣袴ニ着、冬褌袴袴下平均概各一、五枚有シアル程度

不良トナレリ、特ニ衰損著シクハ、輸送靴及靴下ニシテ之ガ急編上靴ハ現
地補修材料ノ購入ハ内保革油ノ利用等ニ依リ保全ニ努ムルト共ニ曰
常ノ使用ヲ極度ニ制限シ又靴下ハ足袋類ヲ自作ヨリ対策ヲ講ジリ
曰 略 養

糧食ハ前月同シノ主食ヲ兼^{主ト}シテ現品副食ヲ代金ヲ以テ岳州ニ
於テ後勤總司令部第三補給區湖南供應局第九糧糧供應庫ヨリ
度領シアルニ補給ノ状況ハ依然極メテ不良ニシテ月間主食ノ補給
實績ハ所要量ノ四六、五者ニ過ヤズ、各隊ニ於テハ一月中旬以テ未補
給不圓滑ニシテ~~糧食~~「食延シ」ニヨリ保有量ト逐次減少シ給養狀
態ハ前月ニ比シ更ニ悪化ノ度ヲ加ヘ主食一日給與量ニ〇〇一三〇〇瓦
甚シクハ一五〇瓦程度ニ過ヤルモノモアリ副食モ亦物價高騰ノ爲取
得不十分ニシテ至副食ヲ加ヘ一日給與熱量ハ三〇〇一、八〇〇、コレリ」
ニシテ全般約ニ朝ノニ食失却食トナリニ箇月以テ左直ルニ栄養不良ハ
進々増大ニ於ケル筈養食補給ノ急激ナル多發ヲ憂慮セラレニ至リ、

之が事態改善を急務採リタル于段在ル如シ

(4) 長沙方面ヨリ米ノ緊急補給ノ督促(參謀長及主任參謀長所ニ出張

兼涉、総理部員ヲ同地ニ派遣)

(5) 東部地附近ニ於ケル米、甘藷等ノ蒐集購入

(6) 月間度徴セル一日分雜費(一人一日平均額約ニ〇元)ヲ特種食品購

入ニ充テシム

(7) 副食品ノ購入ニ方リテハ單位錢價ニ對スル所得熱量ノ増大ヲ重視

シ從テ蘿蔔、葉菜類ノ購入ヲ減少シ甘藷、大豆、豆腐糲等ノ多

量購入ヲ圖レリ又同様ノ目的ヲ以テ努メテ加工品ノ購入ヲ減少シ豆腐

等ハ成ベク部隊於テ自製シ又ハ其ノ困難ナル場合ニ任リテハ大豆等ノ

消化吸収ヲ良好トシル角 糲等ニ之ヲ摺リテ粥ニ入レ略典スル如ク名リ

野菜ノ採取ヲ努ム、前月引續キの如く、キツク收よぶ、よむ、ばこ

バ、よむ、にんじん等野菜ノ利用ハ益々普及徹底シ部隊ヨリテハ

之ヲ以テ惣ト副食物ノ立休ヲ成セルモノアリ、但シ栄養價值ニ多

石期待シ得ザルヲ遺憾トス

月間給養ノ状況石ノ加ラレモ月米ニ近ク緊急輸送米入荷シ状況若干好轉ノ徴アリ。月末現在ニ於ケル各隊給養並ニ主食係有秋況別紙第一知シ

(三) 宿舎

各部隊長任氏部^落宿舎ニ住氏ト雜居ス。大部介陸子會堂等ニ業業雜草等ヲ敷ヤ付垣、携帶天幕等ヲ以テ簡單ニ仕切リシヲ見シ居任シアリ

(四) 給水

池、小川、洞、湖等ヲ水源トシテ煮沸給水ヲ實施シヤリ、山月給水自給對策

主要ナルモノ左ノ如シ

(1) 野草ノ採集(ニ別項記載)
山嶺ニ乾葉復ノ爲ノ草類^雜、製作使用^難、數下ノ鉄釜ニ對テ是餐

一作然

ハ洞庭湖畔ニ於ケル貝類ノ捕獲ハ増水ノ爲實難ト云フ

ナレリ、及之諸所ノ小川田圃等ニ於テ川蝦ヲ捕獲シ得

ズ、但シ其ノ量ハ僅少ナリ

四、防 疫 (瘧) 検査及衛生施設ノ状況

一、防 疫

一、一月以降急性傳染病 (流行病) 發生状況況左ノ如シ

病 名	月 別				計
	一 月	二 月	三 月	計	
赤 痢	一	三	一	五	二
腸 下 痢	五	一	〇	六	〇
バ ン ナ ン	一	〇	〇	一	〇
痘 瘡	五	四	一	九	〇
赤 痢 性 腸 炎 腹 痛 症	一	〇	〇	一	〇
回 歸 熱	四	八	一	一	八
計	七	六	二	一	一

備考 1) アラビアに数字の假似病を示し別記トス
 (2) 右ノ中主要ナル傳染病ニ就キテ述ブレバ左ノ如シ
 (1) 痘 瘡

地方例ニ於テ正發生ハ前月ニ比シ増加シ月間發生數眞痘四三名、
 假痘六名(眞痘一五名)ニシテ別國集結地域以各所ノ節
 落ニ散在シアルニ特ニ步兵隊第百三十五隊隊本部宿營地ニ
 張吳冲(鹿角東南五里)部隊以テ於ケル流行ハ顯著ナリ(表
 春發生數ニ三名)
 單次ニ於テ正發生亦二月ニ比シ増加セリ、月間別隊別發生狀況ニ表
 如ク表第百九隊隊第百隊隊ニ於ケル小流行ヲ除キハ何レモ極メテ假痘
 性ナリ)

別隊別	眞痘	假痘	計	備	要
歩四九ノ二中	一	五	九	百餘名正眞痘發病後経過ニ於テ	
歩一三三本部	一		一	百餘名正眞痘發病後経過ニ於テ	
歩一三三小隊	一		一	百餘名正眞痘發病後経過ニ於テ	

四回 歸熱

月間發生數一五名ニテ前月同様逐次減少シテアリ部隊別發生數左表ノ如シ

計	病區		歩一三ノ中	衛生隊	嶺山ニノ六中	部隊名	患者數	摘要
	院	自隊						
一五	七院	四院	三	一	一	一	一	<p>初發三月十二日(發病同月六日)終發三月二十日(發病同月十四日) 終熱ノ後係</p> <p>同中隊ノ自隊ヨリ發病ニシテ同調隊熱淋症ト</p> <p>一ノ本營員有首發病員七員院三員自病力減定ニシテ</p>
			三					<p>嶺山發病</p> <p>感染發病不明</p>

計	嶺山ニノ五中	歩一五ノ九中	病區	院	自隊	患者數	摘要

衛生所ニ於テは發生ハ新成採ノ爲一部共リヲ新橋河内
 迄ニ滯留セシメタルヨリ感米セルモノト認メラルモ患者三名
 ヲ發生シタル後續發ナク終熄セルガ如シ

第四野戦病院ニ於テは散在的發生ハ一月三日以來依然繼續
 シテ終熄スルニ至ラズ

月間ヲ通シ雨天極メテ多ク(晴天ハ一日日ヲ通シ四五日ニ過ズ)
 能ク氣温亦例年ニ比シ著シク低下シ被服・寢具ノ消毒回
 難ク米ノ貯藏上其ノ不利アリヤ

三) 疥癬

マツリアニ患者發生數左表ノ如シ依然マツリアニ患者ニ對
 スル治療ノ徹底ニ努メアリ

月別	昭和三十一年十一月	昭和三十一年十二月	二 月	三 月	計
患者數	約 〇〇	四一九	三三〇	四七四	一三二三

三) 疥癬

月間實施事項

④衛生施設

在隊入隊、實施（「其、患者、状況」参照）
（伴、各部隊、
取次）隊本部、主として栄養食料、患者、病室、設置、
（収容力、概、不可、言、有、）但、其、施設、八、資、料、對、任、民、間、
係、等、係、一、般、材、資、源、等、於、是、ト、大、差、ナ、シ

其他便所、炊事場、食器消毒場、入浴場（被服消毒施設）等指
 消毒施設、休養室等二箇、一月間記載事項二同シ

五、患者ノ状況

（一）患者發生ノ状況左表ノ如シ

月別	眼病	新病	療治病	急	計	率内一日間発生者數	現在患者數
一月	一三三	八	二	一三三	三六	三五	一九三
二月	一五五	六	一	一七四	四三	四五	二五五
三月	一七七	九	二	一八〇	三一	一九	二二七
計(平均)	四七三	二二	五	四三〇	三五	二二	二六五

備考、新患欄中括弧内數字ハ計三對スル百分比ヲ示ス
 （一）患者中主要病名(類)別新患者發生状況左表ノ如シ

病名	一 月	二 月	三 月
葉 唇 失 調 症	六六(四二)	一五一(二二九)	四〇七(二二六)
マ ラ リ ア	四一九	三三〇	四七四
脚 痛	三六(二五)	二二三	四二(三三)
脚 指 痛	一四(一〇)	一七(一四)	一(〇・五)
結 核 性 疾 患	一一(〇九)	一一(一八)	二四(一三)
急 性 肺 炎	三二(三二)	二五(三二)	二〇(一一)
急 性 胃 腸 炎			一一(六・五)
疥 癬 、 頑 癬	六三八	四六六	四三七
花 柳 病	三(〇二)	二	二(〇一)

備考、一、他疾患の患者又新患の患者ニ對スル百分比ヲ示ス

ニ、マ、ラ、リ、ア、及、疥、癬、頑、癬、ハ、劇、務、休、以、下、ヲ、モ、含、ム、他、ハ、疎、兵、休、以、上、ト、ス

- (三) 主要疾病ニ就キテ説明スレバ左ノ如シ
- 1) 葉唇失調症
- 2) 發生狀況

昨年十月以来米糧食補給の状況逐次不圓滑となり本月より前項記載より給養不良程度に達し給養熱量昨年十月平均約二六〇「カロリー」、本年一月約二二〇「カロリー」、二月約一七〇「カロリー」、本月約一四〇「カロリー」と逐日持續的に低下し一途ヲ進レリ

特ニ二月上旬以来の熱量需給の破綻ハ逐日甚著天調症患者の増加ヲ来シ本月に入りテ該天候以テ本症患者數四七名ニシテ新患數ノ二二六名ヲ占ムルト前表記載ノ如シ尚之ヲ中等症

及反降症ニ分ケ月ノ前半及後半ニ於ケル状況ヲ比較スルに左表如シ

期別	以	分	認	人	員	中	等	症	又	上	輕	症	計													
前	半	一	六	〇	九	六	二	四	七	(五	三)	三	五	六	(三	二)	六	〇	五	(三	七	四)	
後	半	一	六	〇	四	四	二	九	(一	八	六)	四	三	〇	(三	六	三)	七	一	八	(四	四	八)

備考 一 檢査員數等ハ認人員ニ對スル百分率ヲ示ス
 二 本表患者數ハ前日數期末ニ於ケル患者現在數トシテ計斷區分ノ如何ニ拘ラズ本症患者全數ヲ計ス

即午米が總人員の四五割程度ナルモ一定時期ノ後急激ナル増加ヲ来スノ懼アルニ至レリ

四對策

紫養火調症患者多發防止ニ爲 實施セル對策左ノ如シ
i 日課時限ノ変更

紫養不及ノ狀況ニ鑑ミ各隊毎ニ日課時限ヲ適宜變更シ流愛時間ヲ延長シ熱量消費ノ極限化ヲ圖ル

ii 浴食上ノ對策

iii 一般衛生及自給自活對策ノ項ニ記述ノ如シ

iii 實情把握

月間ニ回全員ノ健康診断ヲ實施シ紫養失調症患者ノ數ノ程度並ニ其ノ推移ヲ調査シ觀察セシム

iv 在隊入院

紫養失調症患者多發シ之ヲ凡テ野戰病院ニ收容ス

トト固態ナルヲ以テ即爾命令ヨリ在隊入隊ヲ免絶セシメ主トシ
テ警養失調症遺着ヲ大ニ聯(大)隊痛度ニ收容シ始療
及看護ノ徹底ヲ固レリ 所ケ本疾患示ニ絶對安静ヲ
要スル一見軽症ナルモノト雖モ隨處ノ行動ヲ禁止シ且
増給増給(五割増)ヲ實施スルハ月未理任警養失
調症ヨリ在隊入隊患者計五二名ナリ

の教訓

一 現在ニ於ケル遺着發生狀返ヲ觀ルニ未ダ全取附亂飲取
態トハ謂ハ難ク患者ハ其ノ極ト惣ニ健康ヨリノ体力
有弱者特ニ昭和十九年以降補充充ノ第ニ國交突後出陣
者ヨリ多ク現段階ニ於テ未ダ此種ノ警養關係ヨリモ
休育的乃至精神的不安素ノ關聯ヨリ大ナリト認メラル
二 患者ノ症狀ハ劇瘦、皮膚癢、乾燥、老澤、消失、眩
暈、特ニ精神及神經機能ノ低下(運動反應遲鈍

思考力ノ減退等(頭昏ナルモ下痢浮腫等ノ症状ハ
 著シク又モアリ) 精神、脚氣等ノ合併症ヲ伴フ
 事多シ 單眼ニ來ルコト多シ 眩暈ハ極メテ發覺ナラズ如クモ
 不食ノ數日ハ急激ニ來ルコト多ク種々些細ノ行動ニ因リ
 忽ニシテ症狀急遽ニ惡化シ數時間ニシテ死亡スル例稀ナラズ
 例ハハ某班ニ於テ輕度ノ本症患者合員監視トシテ兵舎
 ニ在リタル際俄ニ降雨始メリテルヲ以テ同兵舎中場ヨリ數
 尺ノ水溜池ノ葉メ合以テ歸リタル所約三十分後ニ急ニ症
 狀惡化シ四、五時間後死亡セル事例アリ 故ニ本症患者
 ハ一見輕症ノ如ク見ユモ外觀ニ促ハルコトナク行動ノ動作
 一監督ニ極メテ慎重ナルヲ要ス

(2) 其他ノ疾病

依然肺結核、結核性疾患、急性肺炎等胸肺疾患比較的
 多シ 疥癬、頑癬ハ前日引續テ更ニ減少セリ

四) 月間の國野病院收容者数及其ノ転歸在表ノ如シ

區分	舊患	新患	計	治愈	死亡	転歸	月末現在患者数
患者数	一三九	一七五	三一四	六三	四六	九一	三
							一一一

五) 月間死亡者(除死亡三名ノ合ハ)ノ病名別員数在ノ如シ

病名	死亡数	病名	死亡数
赤痢	三(三)	肺炎	一(一)
瘧疾	一(一)	多クハ性黄疽	一(一)
又三リ	一(一)	氣ノ	二(二)
回歸熱	一(一)	血	一(一)
脚気	一(一)	症	一(一)
若春尖湖症	一(一)		
急性脚気	一(一)	計	一四六(五二四)

備考一 若秋休教室ハ前月ニ係ル事實ヲ示ス

二 P133 数字ハ除死亡ヲ別記ス

六 患者轉送致送ノ状況

月間野病院收容者数及各科除患者存知リ後送ス

遣唐船送唐使員六名、唐者一五名計三二名ヲ三箇中隊ニ編成
 シ同日民船九隻ノ介乗也云(輸送隊長ハ此輩之混成第八十三旅團護送
 員ニ由リ唐者八名計一〇三名民船四隻ヲ伴ヒ指揮ス) 同地
 ⑤ 廿五日 爾惡天候ノ為、鹿角ニ待機、七日鹿角ヲ岳州ニ到リ、城隍
 職ニ於テ民船ヲ更ニ六隻増加シ介乗ス、十日岳州ヨリ城隍磯ニ到
 リ同地ニ於テ中國軍ヲ七集團軍岳州介處ニ依リ檢査ヲ度ケ、先有
 時計、下層類等ヲ不法押收セシ、同日同地發、二十日目的地タル
 武昌ニ到着シ、患者一三五名ヲ同地第百二十八兵務病院ニ入院セシム、實
 航日數六日、比前降因連續シ、氣温概テ攝氏四一七度ノ程度ニ
 低下シアリ

内本輸送間鹿角ニ於テ二名、岳州ニ於テ七名、新堤ニ於テ二名、龍口ニ
 於テ一名、至承進ニ於テ一名、迎州ニ於テ二名、東江臨ニ於テ二名、計十七
 名ノ死者ヲ數セル、ナニテ、湘漢(岳州南ニ行)ニ於テ爾後ノ輸送ニ
 堪ヘサル者十名ヲ同地第七十五兵務病院ニ入院セシム、死者八名ト現

ニ華僑失調症ノ患者アリ

輸送開始ノ如ク多数ノ死亡者ヲ發生セシ原因ノ主ナルモノハ如シ

① 後述患者中 華僑失調症患者ノ多数ヲ占メ 其等ハ 病症程度ノ

判定困難ナルニテ 夫レ 諸程ノ 悪感作ニ對シ 最モ 影響ヲ受ケ

易クコト

④ 悪天候 連續シコト

① 後述ノ 爲メ 集會班ニ 輸送ニ 依ル 悪感作

⑤ 本患 亦 彼處ニ 於テ 敷別 別 故 第ニ 如シ

七 衛生材料

① 月間 疏費ヲ 交付シタル 外 特記事項アリ

② 渉外事項

特記事項アリ

主食給食状況調査表 [昭和21.3.31調]

区分 隊	一人一日当り給食量(尾)					熱量		食餌区分				支持 日次	携帯糧食 (船内糧食)	携帯糧食 支持日次	携帯糧食 支持日次	摘要	
	米	代用				[力] [リ]	[朝]	[晝]	[夕]								
		甘藷	大根	大豆	豆腐粉												
6	300	250		100	110	雑穀 100	2,207	53	雑炊		混飯	4	15	(700g) 7日分	4	15	
109	320	600	150	100	30		2,518	90	飯		飯	4	12	(700g) 7日分	4	25	
120	435			150		雑穀 500	2,212	50	粥		粥	4	10	(580g) 5日分	4	13	
133	275	800	450				2,027	10	雑炊		雑炊	4	17	(780g) 3日分	4	25	
122A	350	100	150	250			2,407	40	混飯		混飯	4	10	(780g) 3日分	4	16	
116P	300			300			2,295	60	粥		雑炊	4	19		4	19	
116T	350	500	500				1,915	50	雑炊	甘藷	雑炊	4	15	(480g) 3日分	4	21	
2BAS	375	500	500	100			2,424	20	飯		飯	4	19		4	19	
S	362		250	203			2,142	13	飯		〃	4	6	(980g) 5日分	4	16	
1FL	350		500	200			2,133	40	粥		〃	4	12		4	12	
2FL	400	500	300		200	雑穀 150	2,396	00	飯		〃	4	12	(800g) 3日分	4	18	
4FL	350	500	300	40			2,175	74	粥		〃	4	4	(780g) 3日分	4	10	
DTL	350		250	150	50		1,910	30	雑炊		雑炊	4	11	(780g) 3日分	4	18	
Hei	350	100	300	150	250		2,188	00	飯		飯	4	10		4	10	
P.D	300	500	500		20		1,757	90	雑炊	甘藷	雑炊	4	15		4	15	
BR PD	300	600		80			2,118	76	飯		飯	4	19	船内糧食 3日分	4	21	
(熱量) 単位	342.0	1257	18.0	428.2	67.0												

別紙第一

以下状況終大至難クナリ一般ニ船頭ハ船長(護送員)ノ指示ハ勿
 論下隊長(船頭)長ニ言フ余リ無滞スルニ多ク然レテ航行計画ヲ
 立案シ置キモ指圖ノ線及コ合フ其魚ニカレバカクナル状態ニ至ケ至レル
 フト慮ニナリ甚シキハ人員ノ乗船ニマダザルニ出航セシメントシスル概
 目有奇ノ水中ニ没スル等無^異其ノ振舞ハ概テ又モアラアリ
 船頭ノ所^ハ又^ハ行動ノ村^ニカ局金島^ニ下^リ船^ヲル^ル最^モ速^ニ行^キナリ
 又^ハ中国^船及^テ他^船ノ一名^モ乗^船セ^ズ得^ズハ船頭^ハ掌^握ハ勿^レ論^良船^ノ操^縦
 據^ニシテ^是等^ノ事^ヲ行^フル^ル中^ニ於^テハ^ハ中^國船^ノ操^縦ノ^ハ法^行ハ^テ豫^防三^種ノ^有利
 ナ^リ其^ノ詳^情通^譯ハ^ハ可^ク多^クヲ^同行^スル^{コト}ナ^リス

二 艦後機検査ノ状況

艦後機検査ノ状況ヲ實地ニ行ヒ、艦後機検査場ニ於テ日本海軍造船
 所^ノ度^般ハ^高輪^船及^テ他^船ノ^初次^ノ検査^ヲ行^フ云^フ検査隊^ハ第^二次^ニ集團^單長
 州^分所^ノ十^名隊^外ニ^多直^接検査^ヲ行^フ他^人ル^モハ^間接^以下^ノ名^モニ^テ
 リ検査隊長^ハ温^和ナル^人物^{ナル}モ^下士^曹及^テ他^人ノ^無償^ニシ^テ携^行ス^ル明^細

(精省典・京東)

陸軍

証ヲ全ク監視シテ布靴(五烈)初探(ヲナル)備付、福祥、袴下、防寒
靴中、安全剃刀、夏衣、時計等ヲ全ク不法ニ接収アリ、先有、時計等
ハ終了後交渉ノ上、回収アリ、時計等ハ各検査兵カ私慾ヲ満シセガ
等押收セシモニシテ其ノ場多ク自今ノ物入ニ竊取スルモノ多シ

又自今民船ヲ利用スル輸送ニ際シテ、積込度檢地ニ向ヒ先容隊ヲ派遣シ、調都
ノ交渉ヲ實施シ、事前準備ヲ完了スル如クセハ有利ナリ
検査ハ着船場江岸ニ整列實施セラル

3. 携行物色ニハ必ス内容品明細証ヲ準備シ置クヲ要ス、例ハハ醫藥
葯一式、繃帶、裹一式トセス、ソノ内容品ヲモ明記スルヲ要ス、葯物ノ
没収船トナシ

4. 検査ハ下等以下ノ三組ヲ是四組ニ分テ之ヲ行フ、各幹部ハ通譯ヲ
帶同隨行シ、其ノ場ニテ説明スル如クモ没收物件ヲ著シ、没收シタルモノ
ヲ得

5. 検査終了後没收セラルル物件ハ悉ク交渉シ返還セシムル如ク處理ス

ヲ要ス

三、城陵磯検査場以外ニ於ケル中國側不法行為

一、般ニ岳州—金口鎮間ノ碇泊地ニ於ケル中國側ノ態度ハ良好ナリ
又此ノ間不法強奪セシタル物件多數アリ

二、日本軍ノ官署シヤル地帯ニ於テハ不法行為ナシトシテ高島ハ秋田軍部
隊、金口鎮ニハ皆藤部隊官署シアリ

三、隆溪口ヲ於テハ十二日ニヨリ噸便衣ヲ着セル中國兵ヲシテ者八名未
船外套ヲ強奪シ去リ同時刻船團長ハ五〇〇米上流ニ碇泊シ
アリタリ、翌日同地中國側警備隊ニ到リ交渉セルモ言ヲ左右ニシ
テ度ケ付ケス

四、各船毎ノ連絡處置

豫メ航行間ノ連絡處置ヲ講シ置テハ極テ重要ナリ、記號ニハ
赤十字旗ヲ(縦、横五〇程、船着號ヲ記入)利用スルヲ可トス
記號種類、前進停止、異状ノ有無、船着號ヲ關シ、應答等

五、事故防止ニ関スル事項

事故防止ノ爲左ノ事項ヲ徹底セシムルヲ必要トス

一、發源地ニ於テ人故事ノ件一切上陸セシメザルコト。特に如何ナル理由ヲ関ス

恙者ヲ中街地ニ出入セシメザルコト

二、魁メテ中國人トノ交渉ヲ避クルヲ要ス。但シ中國軍人ノ来船スルトハ

ハ機先ヲ制シ之ヲ應接シ接待等ヲ支ハ不致行爲ヲ封スルニ付後より

ハ服裝態度多敷正シシ中國人ニ輕蔑セシメザル如ク指擲スルコト

六、整理ニ関スル事項

ハ至食

五、ロカニ足量十五日分携行セシタルハ適切ナルモノト認ム。船舶ハ

最悪ノ場合ヲ考慮シ一日五ロカノ給與ヲ實施シ来リ

ニ至食

副食品ハ出航前ニ大根、野菜、油等約十日分ヲ一括購入シ置クコト

ス。途中ニ至副食品ヲ購入セントスルモ高價ニシテ時間的余裕ニ乏場合多シ

陸軍

日船團ノ主計ハ少クモ一日前ニ預金日主カ到着豫定地ニ到リ副食等
購入シ置キ人員到着ト同時ニ之ヲ各船ニ分配スルヲ可トス
公若干ノ豫備金ヲ準備スルヲ得ハ有利ナリ(渉外用)
子錫ハ各船毎ニ大ニ一ヲ準備スルヲ要ス
公新ハ芝草等ヲ積込ミ置クヲ有利トスルモ更ニ木ナ新ヲ一週間分
購入シ船倉ニ積込ミ置クハ雨天ノ折極メテ便利ナリ。途中ノ新
ノ購入ハ困難ナリ